

2020年度 公立学校教員採用選考試験 実施状況

2020年度 公立学校教員採用 選考試験は倍率 3.9 倍！ 小学校の倍率は 2 年連続で過去最低！

旺文社 教育情報センター 2021年4月26日

2020年度の公立学校教員採用選考試験(2019年度実施※1)は全体※2で「受験者総数＝138,042人(対前年－10,423人)」、「採用者総数＝35,058人(同＋106人)」で、「倍率＝3.9倍(前年4.2倍)」となった。

近年の「教員離れ」に歯止めがかからず、受験者数は7年連続で減少。この20年ほどは、採用者数は増え続け(2017年度のみ減)、倍率は毎年ダウンしている(2007年度、2010年度のみアップ)。特に小学校は調査開始の1979年度以降、2年連続で過去最低の倍率を更新。本年度は2.7倍まで落ち込んだ。中学、高校も倍率ダウンが続いており、本年度は「中学＝5.0倍」「高校＝6.1倍」となった。

※1.2020年4月1日から6月1日までに採用された者。

※2.小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、養護教諭、栄養教諭の合計。

(本記事のデータはすべて文部科学省「令和2年度公立学校教員採用選考試験の実施状況について」(2021年2月2日)による)

●2020年度 選考試験 採用状況

【受験者総数】138,042人(対前年7.0%減)

【採用者総数】35,058人(同0.3%増)

【競争率】3.9倍(同0.3ポイントダウン)

【採用者構成比率(学歴別)】

国立大教員養成系 25.7%／一般大学 63.6%／短大等 2.3%／大学院 8.3%

【採用者構成比率(新卒・既卒別)】新卒者 38.6%／既卒者 61.4%

【採用率(学歴別)】

国立大教員養成系 41.4%／一般大学 22.4%／短大等 15.8%／大学院 25.1%

【採用率(新卒・既卒別)】新卒者 31.1%／既卒者 22.8%

●2020年度 選考試験 区分別実施結果

区分	受験者数		採用者数		競争率 (倍)
		女性(内数)		女性(内数)	
小学校	44,710	19,739	16,693	9,171	2.7
中学校	45,763	14,106	9,132	3,633	5.0
高等学校	26,895	6,551	4,413	1,457	6.1
特別支援学	9,956	4,339	3,225	1,879	3.1
養護教諭	9,040	7,535	1,388	1,331	6.5
栄養教諭	1,678	1,342	207	198	8.1
計	138,042	53,612	35,058	17,669	3.9

※採用者数は、2020年6月1日までに採用された数。

※小学校と中学校の試験区分を一部分けていない県市の受験者数は、中学校に含む。

※中学校と高等学校の試験区分を分けていない県市の受験者数は、中学校に含む。

※特別支援学校の受験者数は、「特別支援学校」の区分で採用選考を実施している県市のみ集計。

※女性の人数は男女別内訳を把握している県市のみ集計。

※競争率は、受験者数/採用者数。

●過去3年間の採用状況

区分		2018年度	2019年度	2020年度
小学校	採用者数	15,935	17,029	16,693
	競争率(倍)	3.2	2.8	2.7
中学校	採用者数	7,988	8,650	9,132
	競争率(倍)	6.8	5.7	5.0
高等学校	採用者数	4,231	4,345	4,413
	競争率(倍)	7.7	6.9	6.1
特別支援学校	採用者数	3,127	3,226	3,225
	競争率(倍)	3.5	3.2	3.1
養護教諭	採用者数	1,451	1,468	1,388
	競争率(倍)	6.7	6.3	6.5
栄養教諭	採用者数	254	234	207
	競争率(倍)	7.4	8.0	8.1
総計	採用者数	32,986	34,952	35,058
	競争率(倍)	4.9	4.2	3.9

●2020年度 選考試験 各県市別結果

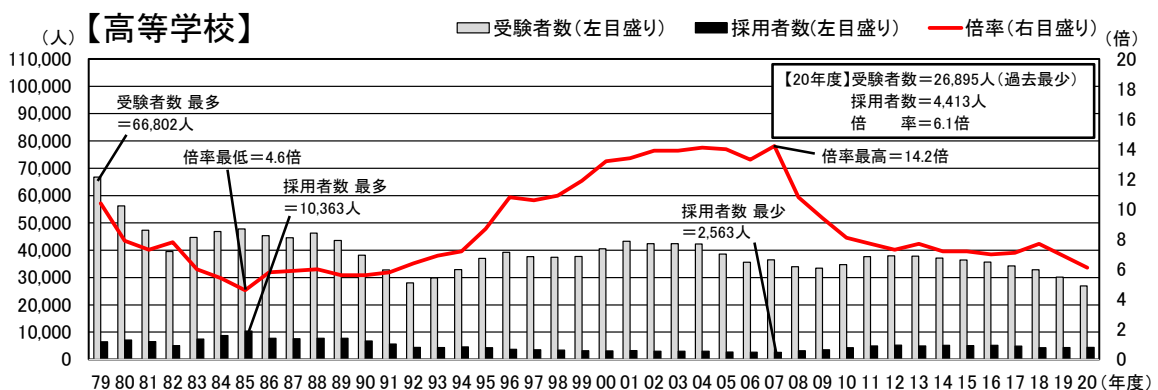
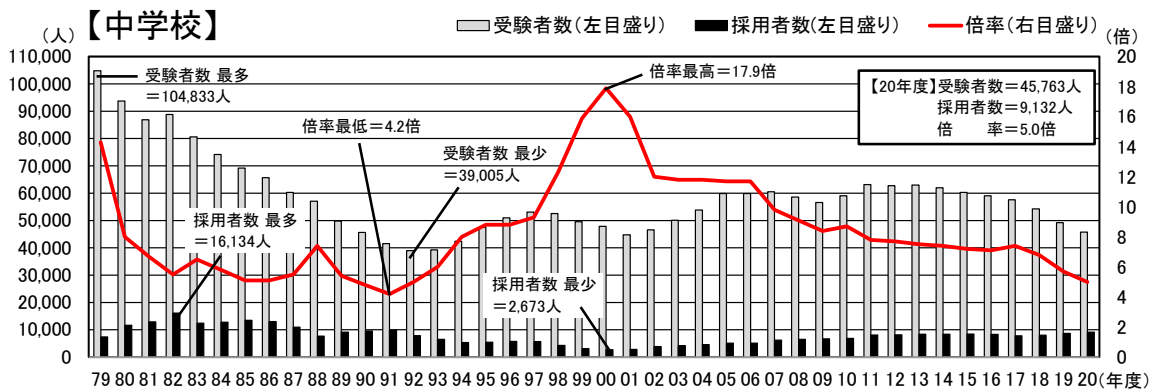
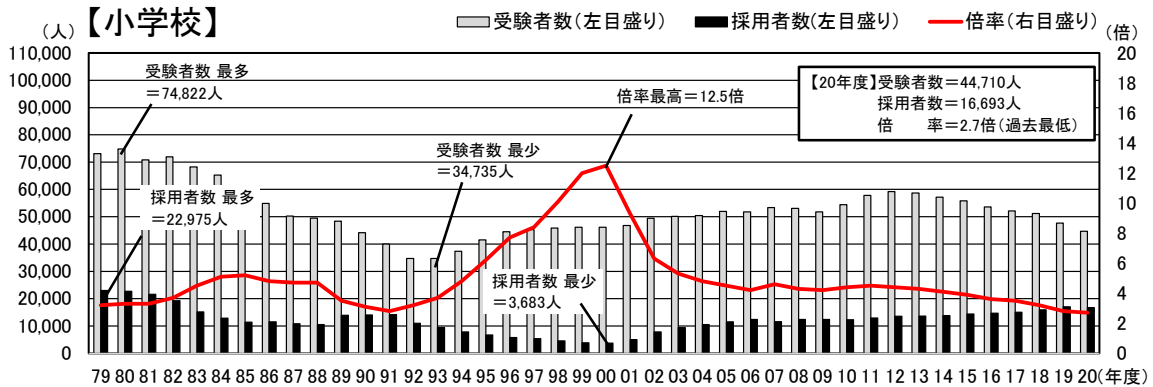
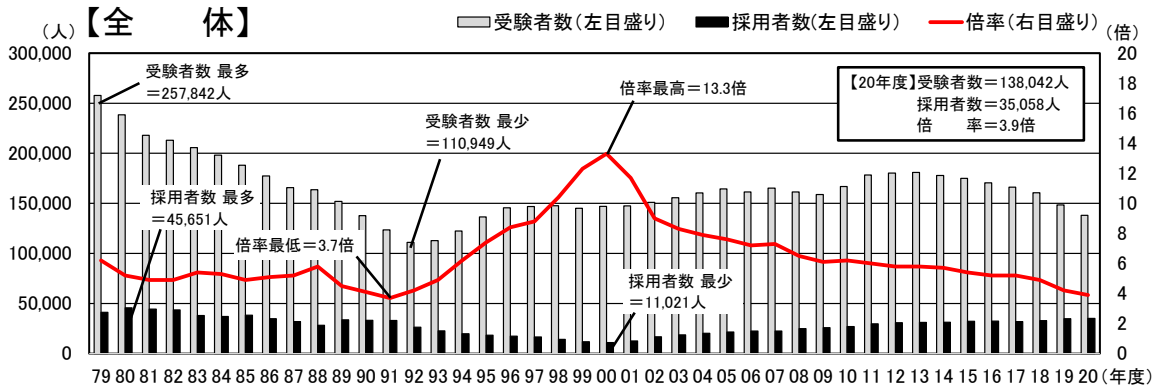
区分	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		養護教諭		栄養教諭		計		競争率 (倍)
	受験者数	採用者数	受験者数	採用者数	受験者数	採用者数	受験者数	採用者数	受験者数	採用者数	受験者数	採用者数	受験者数	採用者数	
北海道	1,067	364	1,539	254	1,028	184	459	108	420	81	94	17	4,607	1,008	3.4
青森県	264	131	382	60	439	43	143	33	70	16			1,298	283	4.6
岩手県	374	138	299	78	360	44	80	31	89	33	14	2	1,216	326	3.7
宮城県	470	208	702	139	453	81	—	35	123	20	26	3	1,774	486	3.7
秋田県	271	98	340	56	237	23	100	22	51	11	16	1	1,015	211	4.8
山形県	324	183	252	89	178	40	55	31	64	30	18	1	891	374	2.4
福島県	505	298	616	149	456	42	229	67	175	31			1,981	587	3.4
茨城県	809	394	787	299	701	158	227	93	222	34	51	7	2,797	985	2.8
栃木県	759	277	612	170	470	81	128	39	123	36			2,092	603	3.5
群馬県	428	99	812	227	481	41	196	49	123	19	8	1	2,048	436	4.7
埼玉県	2,031	758	2,003	373	1,608	247	466	171	324	47	80	10	6,512	1,606	4.1
千葉県	1,852	777	2,777	445	149	258	460	169	324	40			5,562	1,689	3.0
東京都	3,431	1,641	5,442	849	176	293	680	208	747	83			10,476	3,074	3.4
神奈川県	1,227	375	1,184	181	2,204	390	422	144	236	21			5,273	1,111	4.7

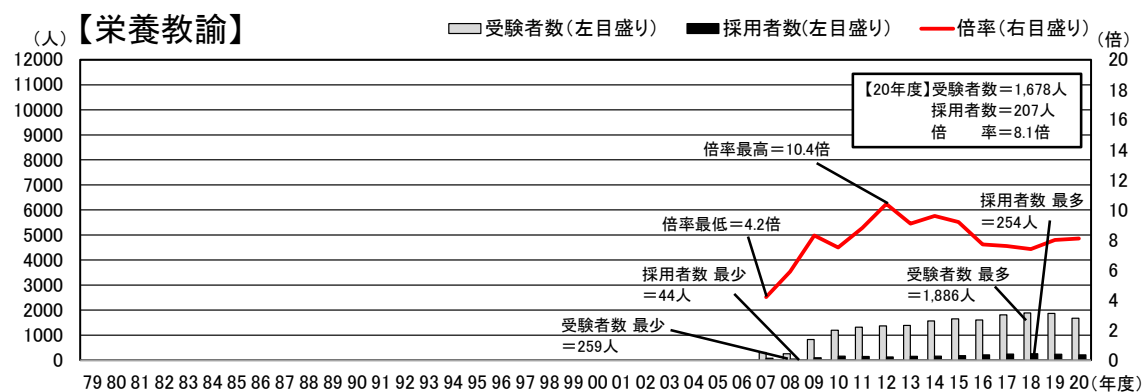
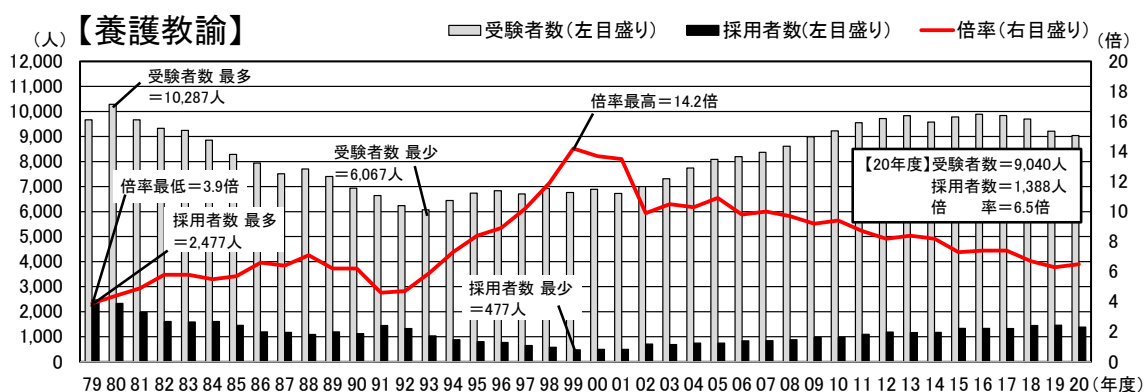
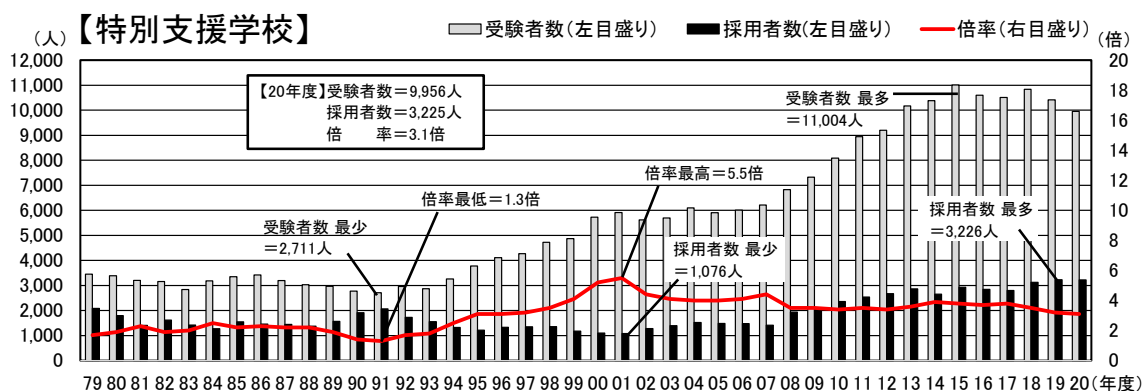
区分	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		養護教諭		栄養教諭		計		競争率 (倍)
	受験者数	採用者数	受験者数	採用者数	受験者数	採用者数	受験者数	採用者数	受験者数	採用者数	受験者数	採用者数	受験者数	採用者数	
新潟県	597	237	499	113	187	6	80	35	141	32			1,504	423	3.6
富山県	257	161	416	82	—	28	57	47	52	6			782	324	2.4
石川県	372	143	590	79	—	51	76	27	83	15	13	1	1,134	316	3.6
福井県	297	107	321	51	33	28	84	15	49	11	13	2	797	214	3.7
山梨県	278	149	289	83	213	23	63	31	51	15	20	1	914	302	3.0
長野県	671	210	605	131	507	107	133	56	131	23	23	2	2,070	529	3.9
岐阜県	610	272	526	151	620	125	204	69	139	29	43	3	2,142	649	3.3
静岡県	715	250	606	154	880	114	385	130	163	21			2,749	669	4.1
愛知県	2,249	740	1,591	300	1,525	260	419	130	408	50	126	10	6,318	1,490	4.2
三重県	920	230	810	110	584	53	98	25	167	22	43	5	2,622	445	5.9
滋賀県	617	223	632	121	292	21	154	31	104	7	12	1	1,811	404	4.5
京都府	512	164	502	112	633	75	158	43	71	20	33	6	1,909	420	4.5
大阪府	1,800	430	1,866	286	1,733	181	834	196	404	25	104	9	6,741	1,127	6.0
兵庫県	1,769	337	1,322	239	1,453	177	271	71	329	39	93	16	5,237	879	6.0
奈良県	602	120	485	106	339	49	123	26	100	10	33	6	1,682	317	5.3
和歌山県	471	186	465	102	290	51	110	25	91	15			1,427	379	3.7
鳥取県	484	88	269	52	226	35	73	24	52	7	10	2	1,114	208	5.4
島根県	305	122	289	58	281	46	39	21	68	16	16	1	998	264	3.8
岡山県	578	164	551	100	523	64	158	40	129	20	24	1	1,963	389	5.0
広島県	815	321	798	163	744	119	172	58	188	26	46	6	2,763	693	2.8
山口県	363	203	349	96	334	59	79	23	90	25			1,215	406	3.0
徳島県	378	106	282	56	337	34	63	27	89	10	17	2	1,166	235	5.0
香川県	399	140	343	73	302	40	71	13	79	5	13	1	1,207	272	4.4
愛媛県	420	189	346	110	379	52	61	26	81	30	35	4	1,322	411	3.2
高知県	934	132	619	66	420	53	102	34	167	23	57	4	2,299	312	7.4
福岡県	973	614	1,034	289	1,381	174	250	104	257	35	65	11	3,960	1,227	3.2
佐賀県	267	191	235	81	322	43	92	34	89	18	6	1	1,011	368	2.7
長崎県	325	230	335	81	286	50	105	47	107	23			1,158	431	2.7
熊本県	312	167	357	69	455	36	229	32	117	23	25	3	1,495	330	4.5
大分県	333	188	366	103	365	50	105	48	98	15	22	3	1,289	407	3.2
宮城県	337	188	359	71	356	45	139	29	109	15	34	5	1,334	353	3.8
鹿児島県	650	253	412	78	384	40	121	32	70	25	68	4	1,705	432	3.9
沖縄県	1,011	233	1,108	93	885	52	218	28	173	13			3,395	419	8.1
札幌市	※	144	※	110	※	9	※	82	※	14			※	359	(3.4)
仙台市	472	148	488	80	41	9	—	6	92	5	22	3	1,115	251	4.4
さいたま市	424	174	528	128	—	6	74	5	60	8	52	6	1,138	327	3.5
千葉市	※	88	※	75	※	4	※	8	※	8			※	183	(3.0)
横浜市	1,554	623	1,145	223			189	64	194	30			3,082	940	3.3
川崎市	577	180	452	99	3	1	73	32	88	8			1,193	320	3.7
相模原市	210	70	260	50					37	5			507	125	4.1
新潟市	210	80	201	31	—	8	12	6	59	10	12	2	494	137	3.6
静岡市	172	74	147	38					24	4			343	116	3.0
浜松市	253	88	191	63					46	6			490	157	3.1
名古屋市	753	220	861	132	—	24	70	22	129	10	47	3	1,860	411	4.5
京都市	585	149	570	79	172	20	178	48	84	10	32	5	1,621	311	5.2
大阪市	1,059	409	818	205	407	37			236	38	64	10	2,584	699	3.7
堺市	349	78	340	52	12	2	—	8	59	7	9	1	769	148	5.2
神戸市	813	133	739	76	32	3	180	48	130	10	24	2	1,918	272	7.1
岡山市	279	87	239	51					38	5			556	143	3.9
広島市	※	166	※	90	※	20	※	13	※	12	※	4	※	305	(2.8)
北九州市	225	151	294	116			76	54	56	8	31	3	682	332	2.1
福岡市	606	182	553	111	13	2	133	52	82	6	47	12	1,434	365	3.9
熊本市	331	103	278	46	6	2			50	9	22	3	687	163	4.2
豊能地区	405	117	335	49					39	4	15	1	794	171	4.6
合計	44,710	16,693	45,763	9,132	26,895	4,413	9,956	3,225	9,040	1,388	1,678	207	138,042	35,058	3.9

- ・空欄＝募集がない場合。
- ・小中で選考を一部分けずに行っている場合、受験者数は中学校に含む(東京都、大阪府、熊本県、堺市)。
- ・中高で選考を一部分けずに行っている場合、受験者数は中学校に含む(宮城県、千葉県・千葉市、東京都、富山県、石川県、福井県、沖縄県、仙台市、さいたま市、新潟市、名古屋市、神戸市)。選考を完全に分けずに行っている場合は、高校の受験者数を「—」としている。
- ・特別支援学校で小中高などに含めて選考を行っている場合、受験者数は「—」としている。
- ・特別支援学校の受験者で小中の特別支援学級に配置された場合、受験者数は特別支援学校、採用者数は小中に含む(福井県、さいたま市)。
- ・指定都市で都道府県と合同で選考を行っている場合、受験者数は都道府県に含む。指定都市の受験者数は「※」とし、競争率は都道府県と同値を()で記載。

●選考試験 倍率等推移

※グラフ最初の1979年は文科省が実施状況の調査を開始した年。選考試験自体はこれ以前から実施。





文科省の分析によれば長引く倍率ダウンは、ベテラン教員が定年で大量退職することなどに伴う採用者数の増加に一因があるとしている。特に小学校は、近年の大量採用による既卒受験者の減少や、民間企業の採用状況が良好であることも大きな要因だという。

現場教員の過酷な労働状況に一切触れていないこの分析が、はたしてどのくらい現実的なのだろうか。文科省が最近始めた「#教師のバトン」プロジェクトは、教員に日々の取り組みや想いを投稿してもらって教職の魅力をアピールしていく SNS の企画だが、思惑とは裏腹に苦労話ばかりで炎上しているという。この話も無関係だとは思えない。教員の置かれている状況を直視しない限り、理想だけでは教職希望者もなかなか増えないだろう。

(2021.4 石井)